

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0874200256		
法人名	社会福祉法人 石下福祉会		
事業所名	グループホームさくら館 ユニット名(2)		
所在地	茨城県常総市馬場2245		
自己評価作成日	令和 5 年 6 月 23 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 10 月 2 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&Jigyo_syoCd=0874200256-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3トモスみとビル4階		
訪問調査日	令和5年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食は、命を支えるエネルギー源であり、「生きることは食べること」です。美味しく食べて明るく元気に過ごして頂く事を継続していくこと、それは介護予防の一步だと思えます。一年を通して農作物の収穫に取り組み(スナックエンドウ、ゴーヤ、ミニトマト、キュウリ、ナス等)育てる楽しみ、食べる喜びを入居者と共に分かち合い、コミュニケーションを図っています。毎月の行事やレクリエーション参加によって喜びや楽しみを感じ一日一日を有意義に過ごせるよう支援しています。入居者の望む暮らしに近づけるよう共に支え合い、助け合い、関わり合いながら暮らしていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は田園風景の広がる高台にあり、大きな窓からの景色が四季折々に楽しめる。敷地内には同法人の特別養護老人ホームがあり、看護師による健康管理や管理栄養士による献立にて利用者の健康維持に努めている。管理者と職員は毎月独自に利用者を含めた防災訓練を行っており、災害対策に繋がっている。職員は利用者の残存機能を活かせるよう趣味活動を個別に支援し、利用者の生き甲斐になっている。また、職員は手先の器用な利用者から学ぶことができる関係性が構築されている。法人本部の事務所との連携が図られており、全体で利用者の支援ができる体制になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人の命は地球より重い」の理念を基に入居者一人一人の個性、ペースに合わせてサポートしている。気になる点がある場合は全職員の共通の課題として考えサポートしている。	野菜作りを行い、外気浴を兼ねて土や自然に触れて気分転換に繋げることを相談して取り入れている。利用者の意志を尊重し個性を活かせるよう、利用者の意見をよく傾聴することで個別に対応している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により地域との繋がりは中断していたが緩和された為に地域との交流を徐々に始めています。	散歩に出かける時は地域の方と挨拶を交わしたり、入居者の家族等から野菜の差し入れなどがあり地域とのつながりがある。地域の企業からは敷地内に咲いている紫陽花やラベンダーなどの見学をさせてもらうなど地域の協力がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で積極的な交流が難しい期間が続いていた。日常の散歩や屋外で触れ合う事によって関係を切らさず認知症の理解を深め支援して頂ける関係を築いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに一回開催コロナ禍で家庭代表者、地域代表者の方には3年間出席をご遠慮して頂きました。今年度からは出席して頂く事で入居者の方々の様子やそれぞれの方々の疑問や希望を聞く機会として有効に活用させて頂きます。	コロナ禍のため家族等には事前に電話で意見を聞き、市の担当と事業所だけで開催している。外部評価の結果を玄関に置き、自由に閲覧ができるようになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えたり市町村担当者に情報をいただいたりしながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市との情報交換は電話で行い、生活保護受給者との面会などで来所している。市からの研修会の案内があり日程が合えば参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また全職員が常に目に付く所に拘束について掲示している。	代表者及び全職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また全職員が常に目に付く所に拘束について掲示している。	3か月ごとに法人全体で委員会を開催し、その後事業所内で委員会を開催している。3か月ごとの研修を計画しているが今年度は2回の開催となっており、記録が研修記録として残されていない。	定期的な研修の実施と研修記録を残すことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員は外部研修及び内部研修に参加して勉強会を開いている。虐待が見過ごす事が無いように注意を払い防止に努めている。例えば全職員の目に付く所に虐待について掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員で地域権利擁護事業や成年後見制度について研修し必要な入居者にはそれらを活用出来る場所に置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の権利・義務が契約時に明確に示され入居者とその家族に十分説明して同意を得た上でサイン、捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等に関する相談窓口や第三者の苦情相談窓口を設けている。本人や家族等に意見や不満・苦情を聞き、運営に反映させている。外部評価の結果をいつでも閲覧出来るように玄関に配置している。	毎月「さくら便り」を送付する他、家族からの電話にて意見を聞いている。また面会時に声をかけ話を聞いている。家族からの意見は事務所で対応し、管理者と職員で話し合い、管理者や事務所から家族へ電話等にて伝えている。必要が生じた場合は代表に相談することになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、日頃から話しやすい雰囲気作りやに努め、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	勤務調整や休みの相談にのっている。野菜作りが好きな利用者があることから、菜園を始めてはどうかとの意見に昨年から少しずつ取り入れた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員各々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい等、各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員の研修を積極的に進めている。月1回の法人内で研修する機会、外部研修に参加させる等、積極的に働きながらスキルアップ出来る環境作りを努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員が特養さくら館との交流や合同研修会等で他同業者と交流する機会を持ち勉強会、相互訪問等の活動を通じて情報交換しサービスの質の向上をしていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者からグループホームの生活に慣れるまで本人が困っている事や不安に感じる事等を傾聴しながら本人と職員の信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を開始する段階で家族が困っている事、不安に思っている事、要望等、常に耳を傾けながら信頼関係を築いていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を利用する段階で本人と家族の話し合いの中で、その時必要な支援を見極め他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人を介護させる一方の立場に置かず本人の豊かな人生経験から学ぶ等労い支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族を支援される一方の立場に置かず本人と家族の絆を大切にしながら、今後の生活を前向きにとらえて本人を共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた馴染みの人や場所等、家族から面会時に情報を収集している。また家族以外の方の面会を許可している。コロナ感染者が減りつつある今でも外出や外出は遠慮して頂いている。	本部事務所も利用者の人間関係を把握しており、家族等以外の馴染みの近所の方でも面会できるようこれまでの関係を断ち切らないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し一人一人が孤立する事なく楽しく関わり合いお互いに支え合いながら生活出来るように支援していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や自宅に戻る場合、サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら必要に応じて本人、家族の経過をフォローし相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向をケース記録や業務日誌に残し職員間で確認している。思いを表出するのが難しい利用者の場合も、表情や仕草、生活歴など色々な観点から思いを汲み取り希望に添えるような取り組みを検討している。	利用者の話を傾聴し、残存機能が活かせるような可能な限り趣味活動等(編み物・箱折・折り紙等)を取り入れている。また個性を重視し、他の利用者の様子を見学している利用者もおり、介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報や日頃の様子を話し合いながら一人一人の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。例えば夜間の様子、起床時の様子、バイタルチェック等を含め朝の申し送りで職員全員で入居者一人一人の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らす為に、事前に本人や家族の意向を確認している。また往診時に医師から医療面での指示やアドバイスを得て計画書を作成している。計画書は本人の状態に応じて随時見直しを行っている。	基本1年の計画で長期目標1年・短期目標6カ月とし、詳細なアセスメントにてカンファレンスとモニタリングを6カ月ごとに行っている。医師の意見が往診時、看護師の意見は電話等にて事前に聞き計画に反映させている。併設事業所の看護師がカンファレンスに参加することもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録(ケース記録)に記入し職員間で情報を共有しながら職員会議等で介護計画の見直しをしてケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して感染予防を踏まえた範囲で可能な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域参加や交流を控えて感染防止に努めていた。消防署と合同開催する消防訓練も見送られる事があったが施設内の活動を通して安全な暮らしを目指した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に掛かりつけ医への受診が可能な事や協力医療機関の医師による訪問診療等の受診も出来る事を伝えている。本人、家族の希望を伺った上で掛かりつけ医に受診する場合は医師宛の診療情報提供書で情報を伝えている。	協力医療機関の医師による訪問診療や訪問歯科診療、併設施設の看護師による健康管理等を行っている。入居前からのかかりつけ医への受診を継続している利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護職員に気軽に相談出来る関係を構築している為、日常の健康相談や医療行為の支援を得られる事が出来る。その為個々の利用者が適切に看護や受診を受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療が出来る、早期に退院出来るよう病院関係者との情報効果や相談に努めている。併設の特養と共に週2回、回診日があり受診出来る体制を整え病状の把握を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や看取りに関する事業所の指針を利用者や家族に説明し、同意書を頂いている。ターミナルケアマニュアルを作成し、年一回内部研修を行っている。	「重度化や看取りに関する指針」にて必要時に説明し同意を得ている。「ターミナル確約書」・「緊急時の対応についての同意書」を本部事務所が説明し同意を得ている。重度化に対するマニュアルは整備されるまでに至っていない。	重度化に対するマニュアルと指針を整備し、研修を行い記録に残すことを期待する。また、見取りに対する事業所の指針を相談し必要な内容の整備を行うことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えてマニュアルを基に全て職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い実践力を身に付けるように努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を月1回の避難訓練で色々な想定で実施している。訓練後は反省点や課題について話し合っている。	様々な災害を想定した訓練を毎月実施し、緊急時の連絡網やフローチャートが整備されている。3日分食糧をローリングストックしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者や職員は、一人一人の人格を尊重し配慮しながら支援している。利用者の肖像権を含めた個人情報を使用する場合の同意書も契約時にいただいている。また個人情報の管理は鍵を付けてきちんと管理されている。	理念に掲げて一人ひとりの個性を尊重してケアに活かしている。管理者と職員は利用者に対する言葉使いや呼び方等に配慮している他、職員会議の中で話しているが記録を残すまでに至っていない。	定期的な研修を行い、記録を残すことにより全職員で理解されることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり自己決定出来るように働きかけている。日頃から信頼関係に努め体調や生活リズムの安定を確保しながら思いや希望を表しやすい環境にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人一人のペースを大切に、その日をどのように過ごしたいのか希望に沿ってその人らしい暮らしが出来る様に支援している。	職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人一人のペースを大切に、その日をどのように過ごしたいのか希望に沿ってその人らしい暮らしが出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様に支援し、その方のこだわりを尊重している。(カットやカラー、衣類の組み合わせ等)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、同法人の管理栄養士に相談し、利用者の嗜好に配慮した献立を立てている。また残存機能を活かしながら、利用者の状態にあった家事活動の参加を促している。	行事に応じた献立を提供し季節感を味わっている。納涼祭では焼きそばを作ったり、ホットケーキなども利用者と一緒に作って楽しんでいる。イベント時には松花堂弁当風に弁当箱に詰めた食事を出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保出来るよう一人一人の状態や習慣に応じた支援をしている。また医師からの指示に沿った適切な食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに力を入れ食前口腔体操や一人一人の口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人一人の排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援をしている。日中は全介助の入居者もトイレでの排泄を促し、夜間もトイレ誘導をする等、極力オムツを使わず生活出来るよう支援している。	排泄チェック表から利用者それぞれの排泄パターンを把握して声掛けをしてトイレ誘導をしている。排泄状況の改善がみられる利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し便通を良くする飲食物の工夫や運動への働きかけを行い個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本週に2回で午前中に行っているが、利用者の希望に沿って行えるようにしている。また季節感を楽しむためにゆず湯や菖蒲湯なども行っている。	しょうぶ湯やゆず湯を行い季節感を味わうよう支援している。冬場は寝る前に足浴をして温める利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況に応じて休息したり安心して気持ちよく眠れるよう支援している。認知症や生活不活発病が進行しない程度に本人が自由な生活時間を過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。また服薬の支援については医師の指示通り服薬を支援し病状の変化の確認に努めている。毎週薬剤師と薬や本人の状態について話し合いを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の力量に合わせて食事作りや手伝い、配膳、後片付け、散歩等、利用者が張り合いや喜びが得られるよう役割づくりをしている。またレクリエーションや書道、行事等により外出し気分転換の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以来、外出は殆ど出来ていない状況でしたが、最近では入居者の希望に沿って近所を散歩に出掛ける等、戸外に出掛けられるよう支援に努めている。毎月の行事では花見に出掛ける機会を設け地域の方との交流が図れるように支援している。	コロナ禍で外出を控えており、利用者は主に事業所内で趣味活動を行っている。近所への散歩や外気浴を行っている。季節を感じられるようドライブで花見に行く計画をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力に応じてお金を所持したり使用出来るように支援している。現在、人と接する場に出る事が難しいが、出た場合は金銭間違いがないように必要に応じて見守り等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人が自ら電話をしたり手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は窓が大きく明るい。窓からは外の景色が良く見え季節の変化も感じられる。玄関には長椅子が設置され座ったまま靴を履きかえられる。行事等の写真も飾られ、手軽に家族も閲覧できるようにしている。	玄関ではテーブルと椅子を設置し、仕切りを付けた状態で家族等との面会ができるようになっている。また、長椅子にて靴の脱ぎ履きがしやすくなっている。廊下には季節に合わせた写真や手作りの作品が飾られている。食堂兼居間は大きな窓から景色が見え季節感を味わうことができる。職員は利用者本人が生き甲斐にできる趣味活動への支援を行い、折り紙や壁飾り等季節に合わせて作成し掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	館内外にはソファやベンチがあり自由に座って話をしたり家庭菜園の野菜の収穫が出来る等、楽しく過ごして頂けるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの物や、家族の写真や思い出の品物などを飾り、居心地良く過ごせる工夫している。また転倒等の危険がないように環境整備を心掛けている。	居室内でもゆっくりと過ごせるように家庭から馴染みの物を置いてその人らしい暮らしの部屋となっている。各居室には表札のように名前と写真が掲示されており、部屋の間違い防止に活かしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーであり廊下は車椅子がすれ違える広さを確保している。また高齢者が使いやすい位置に手すりやコンセント等が取り付けられている。自動火災通報装置設置の他、スプリンクラーが設置され安全面にも注意している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

所名 グループホームさくら館

作成日 令和5年9月30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5	3ヶ月ごとの研修を計画しているが今年度は2回の開催となっており記録として残されていない。定期的な研修の実施と研修記録を残す事を期待する。	年に4回(4月、7月、10月、1月)に開催する。研修記録を残していく。	マニュアルに沿って研修を行っている。今年度は2回開催している。今後10月と1月に予定しています。	1ヶ月
2	12	重度化に対する指針、マニュアルの作成、定期的な研修を開催し職員の理解し易い環境を整え記録に残す事を期待する。	重度化に対する指針、マニュアルを作成し職員が理解し易い定期的な研修を開催する。	重度化した場合の対応における指針とマニュアルを作成しこれを基に8月30日に研修を行いました。後は12月に予定しています。	実施済み
3	14	一人ひとりの個性を尊重してケアに活かしている。管理者と職員は利用者に対する言葉使いや呼び方に配慮している。職員会議の中で話し合いをしているが記録を残すまでに至っていない。定期的な研修を行い記録を残す事、全職員で理解される事を期待する。	研修は行っているが記録が不十分だった為、記録を残し意識の向上に繋げる。	各研修ごとにきちんと記録を残すようにした。「プライバシーの保護の取り組みに関する研修」9月20日実施、R6.2月に予定。	実施済み
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。